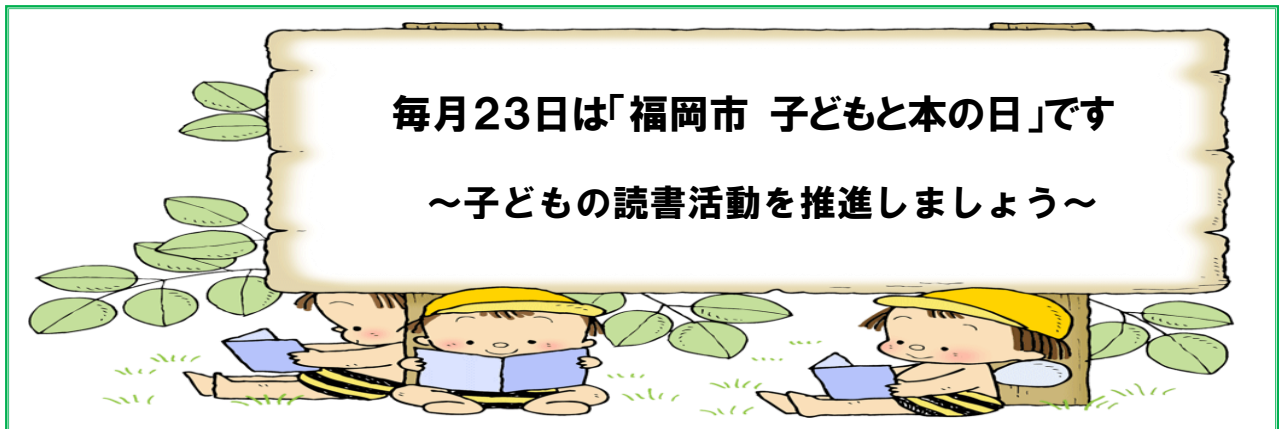




子どもの読書活動の推進

「子どもの読書活動の推進に関する法律」では、『子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことができないもの』とされています。

子どもが、たくさんの本を読むと・・・

- ・ たくさんの言葉に出会い、たくさんの言葉を覚えます。
- ・ 自分の知らなかったことを知り、知識や情報が増えます。
- ・ 「読もう」と自分の意志で本を読むと、内容をより理解し、読解力が向上します。
- ・ 本の文書は順序だてて書かれています。繰り返し読むと、筋道を立てて考える力や論理的思考力が身につきます。
- ・ 物語を読むことで、主人公の気持ちや情景を想像する力が身につきます。
- ・ 本を読むことに没頭する経験は、集中力が向上します。
- ・ 語彙や知識、想像力が増すと、文章表現力やコミュニケーション能力が向上します。

また、さまざまな調査においても、学力と読書には相関がみられることが明らかになっています。たくさんの本を読む子どもは、人が成長するのに必要とするさまざまな力（＝人生をより深く生きる力）を身につけ、伸ばしていくのではないのでしょうか。

そのため、私たち大人は、子どもの本への関心を高めるために、

- 身近な大人による読み聞かせを行う。
- 子どもが自由に本を手にとることができる環境を作る。
- 毎日、短い時間でもよいので読書の時間を設けてあげる。
- 身近な大人自らが本を読む姿を見せる。
- 読んだ本の感想を共有しあう。



などの働きかけを積極的に行っていく必要があります。これからも、子どもの読書活動の推進と充実を図り、子ども達が、独り立ちした時のために、子どもの頃から、人生をより深く生きていける力を育てていきたいものです。

図書館となかよしになろう

5月も下旬を迎え、学校では、子ども達が新しい環境や学習に慣れ、学習も充実する時期となりました。そのような中、学校図書館でも、学校司書や学級担任が、子ども達へのオリエンテーション等を行い、気持ちも新たに、学校図書館での貸出しが活発になる頃ではないでしょうか。

年度初めのオリエンテーションでは、子ども達が気持ちよく、そして、楽しく学校図書館を利用することができるための「正しい学校図書館利用の方法や約束」を確認し、「読み聞かせ」や「ブックトーク」等を通して、子ども達が「早く本を借りたい。」「図書館って楽しそう。」といった「本との出会いへの期待」を高めることができるようにしています。

子ども達が学校で、本の楽しさを知り、本の探し方を身につけることにより、家庭や地域、公民館にある文庫、近くの公共図書館などを活用し、自らの手で、読書活動を進めることができるようになって欲しいものです。

また、小学校では国語の時間に、図書館に関する学習を系統的に学習していきます。

☆ 小学校での図書館に関する学習内容（国語科）

学年 題材名	内 容
1年「こんな もの みつけたよ」 1年「としょかんとなかよし」	図書館のマナー 表紙と題名を手がかりに読みたい本を見つける
2年「図書館たんけん」	本の分け方、本のならべかた
3年「図書館たんていだん」	本の分類について
4年「図書館の達人になろう」	本の探し方やラベルの役割
5年「図書館を使いこなそう」	日本十進分類法、著作権
6年「公共図書館を活用しよう」	公共図書館、地域の施設の活用

国際アンデルセン賞

1953年にIBBY（国際児童図書評議会）が創設した、世界で初めての子どもの本の国際的な賞です。1956年に第1回の授与が行われ、以来、隔年で選考されています。IBBY世界大会の中で行われる授与式では、受賞者に、賞状とアンデルセンのプロフィールが刻まれたメダルが贈られます。子どもの本が未来を拓き平和を生むというその理念から「Little Nobel（小さなノーベル賞）」と称されています。2026年は、作家賞をマイケル・ローゼン〈英国〉、画家賞を蔡皋（ツァイ・ガオ）〈中国〉が受賞しました。マイケル・ローゼンの作品は、日本でも、『悲しい本』（訳：谷川俊太郎 あかね書房）や『ペットのきんぎょがおならをしたら……？』（訳：ないう ふうみこ 徳間書店）等、多数が書籍化されています。

例年、5月半ばを過ぎると沖縄では「梅雨入り」です。福岡地方の梅雨入りは、6月中旬頃となっています。この長雨の季節、子ども達が本に出会い、親しむことができるように、本の準備ができたらいいなと思っています。学校では、本の貸出促進の工夫、ご家庭でも、テレビやゲームだけではなく、静かに雨音を聞きながら、家族全員でゆっくりと本を読む時間の設定などに取り組んでみては、いかがでしょうか。

＜須藤＞



6月のことと人

6月6日 ^{ぼうしゅ} 芒種

「二十四節気」の一つ。「芒種」の日付は、年によって異なる。近年は6月5日か6日である。(本年は、6月6日)「芒種」には期間としての意味もあり、この日から、次の節気の「夏至」前日までをさし、米や麦などのイネ科の植物の芒(のぎ)を持った穀物の種をまく季節という意味も持つ。

6月23日 オリンピックデー

1894年、クーベルタンの提唱により、国際オリンピック委員会 (IOC) が創設したことを記念する日である。1948年のIOC総会において、同日がオリンピックデーに定められた。この日に各国の国内オリンピック委員会により、記念イベントが実施されている。

モーリス・センダック

(1928.6.10~2012.5.8)

アメリカ生まれ。絵本作家。世界中で約2000万部売れた『かいじゅうたちのいるところ』をはじめ、80冊を超える作品を発表し、現代絵本界を代表する存在となっています。『かいじゅうたちのいるところ』は、当初は批判を浴びましたが、夢想的で自由な視点で描かれたストーリーは子どもの強い支持を受け、親しみやすさと芸術性の融合した作品として、高い評価を受けるようになりました。

ヨハンナ・シュピリ

(1827.6.12~1901.7.7)

スイス生まれ。作家。『アルプスの少女ハイジ』の著者として広く知られています。原題は『ハイジの修行時代と遍歴時代』(1880)と『ハイジは習ったことを使うことができる』(1881)の2部作でできています。日本語訳の版本は過去様々なタイトルで100種類以上出版されました。1974年にテレビで放映されたアニメとしても有名です。

エリック・カール

(1929.6.25~2021.5.23)

アメリカ生まれ。絵本作家。鮮やかな色彩感覚によって「絵本の魔術師」といわれています。ニスを下塗りした薄紙に指や筆で色をつけた色紙を切り抜き、貼りつけていくコラージュの手法が特徴です。発表した絵本は40作以上にのぼり、代表作である『はらぺこあおむし』は70以上の言語に翻訳され、出版部数は5500万部を超えています。

ルーネル・ヨンソン

(1916.6.29~2006.10.29)

スウェーデン生まれ。児童文学作家、ファンタジー作家。『小さなバイキング ビッケ』シリーズの作者として知られています。またスウェーデンの有名なイラストレーターのエーヴェット・カールソンが描いた主人公「ビッケ」の挿絵も広く知られています。

図書館員のひみつの本棚 第241回

今月は、2026年国際アンデルセン賞受賞者マイケル・ローゼンさんの絵本をご紹介します。

『ローバー』

マイケル・ローゼン／文, ニール・レイトン／絵, しみず なおこ／訳 評論社 2007年
¥1,300(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★★★★ 小低学年★★★★ 小中学年★★★ 小高学年★★★ 中学生★★★
高校★★★ 一般★★★ (★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

「この子が僕のペットのにんげん。僕より少し大きいくらい。僕がつけた名前は、ローバー。」
これは、女の子とペットの犬のお話…ではなく、犬の僕と、僕が飼っている(?)にんげんの女の子「ローバー」とその家族のお話です。

夜、寝床にもぐりこんだローバーをお気に入りのぬいぐるみを使って寝かしつけてあげたり、公園でキーキーほえる姿を微笑ましく見守りつつ、投げては失くしてしまうボールを取ってきてあげたり、ローバーのお世話に毎日大忙しの僕。

去年の夏、みんなで海に行った時にも、ローバーの行動が騒ぎを引き起こして…。

<子どもに手渡す時のポイント>

犬の僕と比べると、耳もそれほど良くない、ツメもか弱い、毛も少ししかない人間は、色つきのやかましい箱(テレビ)を見て、動く箱(車)に乗って、着いた夏のビーチで、冬毛から派手な夏毛(水着)に変身する…など、犬目線の人間や人間社会の描写が、ユニークで面白い絵本です。また、鉛筆で描いた下書き線に、そのまま色をのせたような一見ラフな挿絵も、犬の僕から見た人間の世界というイメージにピッタリ。文章と一緒に、挿絵や一つ一つの吹き出しまで、じっくり見て楽しんで下さい。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手にとってみて下さい。